

【トラック6】

まる「さて、お兄さんは椅子に座ってこっち向いてくださいねえ〜」

まる「マルもお兄さんのお向かいに座ります♡」

まる「これから女の子特有の汗臭い匂いに包まれて...」

まる「頭痺れさせて、クラクラさせちゃいましょうねえ、変態さん♡」

まる「マルの匂いに包まれながら...乳首いじったらあ、きつと頭バカになれますよお♡」

まる「背徳感たっぷりでえ、変態的でえ、普段は味わえない快樂に包まれて...」

まる「おちんぽからおせーし、びゅっびゅ♡びゅっびゅ〜♡」

まる「くすっ...想像して興奮しちゃいました？」

まる「本当に、匂いフェチのどマゾ、なんですね♡」

まる「そういえばお兄さんってえ...」

まる「ニーハイスッキングを履いたマルの足、よく見てましたよねえ...」

まる「際どい制服の上半身もですけどお...」

まる「ローファーから絶対領域も、舐めるように視姦しちゃって...」

まる「気づいてないと思いましたあ？ 足、好きなんですよね？」

まる「本当は蒸れてくっさあくなった足の匂い、嗅ぎたいんじゃないですかあ？」

まる「ほら、触ってみてくださいよお...スリスリして...」

まる「変態マゾのお兄さんはあ、足でいっぱい虐めてもらいたいのですかあ？」

まる「あとは...色んな匂いがい〜っぱい染みついたあ、マルのパンツ♡」

まる「顔に押し付けながらチンズリされたいとかあ？」

まる「や〜ん、マルの色んな体臭...変態お兄さんのオナネタにされちゃいますう♡」

まる「う〜ん、そうですね...今日はちよつと趣向を変えて...」

まる「マルは乳首を触ってあげません♡」

まる「変態お兄さんに色んな匂いを嗅がせてあげますからあ...」

まる「その乳首は、自分でいじってください♡」

まる「できますよねえ？」

まる「普段からだらしくチクニーをしている変態さんなら♡」

まる「男なのに、いつも家でクリクリ触ってあんあん喘いでるみたいにい」

まる「恥ずかしいチクニー...ここでマルに見せてくださいよお？」

まる「自分のお手でえ...くるくる、くりくり♡」

まる「恥ずかし〜くコネコネしてえ...我慢できなくなって、爪を立てて...カリィって♡」

まる「ほら、暑いんだし〜...下着一枚になりましょ？」

まる「はい、脱いで♡」

まる「むふふっ、うす〜い下着のシャツがびったり肌に張り付いて...」

まる「チクニー、しやすそうですね♡」

まる「ほら、それじゃあお兄さんのタイミングでいいですよ？」

まる「いつもやってるようにどうぞ〜♡」

まる「んー？ 恥ずかしい？ じゃあそのマゾ乳首、触りたくなるようにしてあげますよお♡」

まる「ほら、マルの足元見てください...今からパンプス、目の前で脱いであげます...」

まる「これを脱ぐと...むわあって蒸れたあつうい熱が広がって...」

まる「大好きなくっさあい臭いが嗅げますよお？」

まる「んっ...よししょ...っと...」

まる「んん...うわぁ...すんすん、すん...匂いすっご...

まる「ここまですぐ匂ってきちゃう...くっさぁ♡」

まる「くすっ、でもお、お兄さん好みの...こおいメスの匂い♡」

まる「はい、この蒸れ蒸れのストッキングの足、お兄さんの好きなように嗅いでいいですよ」

まる「ゆっくりと顔に近づけて...くすっ、もうすごい匂いですよね？」

まる「いいですよお...君のお顔に...汗をいっぱい吸ったストッキング足を...ぴと♡」

まる「あははっ、ふがふがして、お顔あったかいですか〜？」

まる「マルの匂い...好きですかぁ？」

まる「足の臭いで乳首もおちんぽも勃起させて喜んじゃうなんて...」

まる「雑魚マゾらしくて、隷属的ですね♡」

まる「しっとりしたマルの足の感触、たっぷり楽しんでくださいね〜、変態さん♡」

まる「なんなら舐めてもいいですよ？」

まる「ぺろぺろって、わんちゃんみたいに♡」

まる「ねぇ...こんな濃いメス臭嗅いだらぁ...乳首、我慢できないんじゃないですかぁ？」

まる「ほら、いいですよ？見てあげますから...」

まる「自分でコスコスってフル勃起したマゾ乳首さん、いじってください？」

まる「ぷっ、くすっ...へえ、お兄さんってそうやっていつも乳首いじるんだぁ〜♡」

まる「優し〜くるくる、周りから触って...感度を高めて...」

まる「ピンって貼ったマゾ乳首さんが、早く触って〜って言ってるみたい♡」

まる「小さな女の子の蒸れ蒸れの足の匂いをお...」

まる「直接鼻からゼロ距離で嗅ぎながらのチクニー、最高ですよねぇ？」

まる「はぁはぁって、荒い息遣いしちゃって...とっても夢中で怖いですよ♡」

まる「ねね、その後はどうするんですかぁ？乳首くるくるのあとはぁ？」

まる「わっ、今度は優しく指で挟んでコリコリしてる...あっ♡って恥ずかしい声漏らして...」

まる「コリコリコリコリ...コリコリコリコリ...」

まる「あまあい刺激とエッチな匂いで頭いっぱい♡」

まる「ほんと、マゾですね♡乳首で遊ぶのが大好きな、乳首マゾ♡」

まる「...でも素直になった変態の姿、可愛いですよお」

まる「くすっ、遠慮しないで、好きなように乳首弄っていいですからね〜♡」

まる「マルの匂いも...直接足を押し付けられてるからぁ」

まる「息を吸うたびにマルのくっさぁい汗の匂いが入ってきちゃう...」

まる「乳首の刺激と足の臭いで脳が痺れて...もう何も考えられなくなりますかぁ？」

まる「もっとバカになって？もっと頭蕩けさせて？乳首の快楽に溺れちゃいましょ...？」

まる「さて、そろそろパンパンになったここ♡おちんぽさんも解放してあげましょうか♡」

まる「んー？ほら、足で踏んで教えてあげますよ...ここ、ここです♡」

まる「お兄さんのバキバキになったマゾちんぽ♡」

まる「くすっ、自分でズボンおろして出してください♡」

まる「お顔ふみふみされて、チクニーで興奮しちゃった雑魚ちんぽ、マルに見せてください」

まる「そうしたらあ、ストッキング脱いで生足で踏んであげますよ〜♡」
まる「汗でしっとりしている生足で踏み踏みして...マルのメス臭擦り付けてあげます♡」

まる「ほら、どうなんですかぁ？」
まる「1日熟成して蒸れた足でえ、ふみふみちゅこちゅこ、されたくないですかぁ？」

まる「あははっ、もう先走りとふとふ漏れてますう♡」
まる「さきっぽテカテカさせて...エッチな匂い嗅いでお漏らし...だっさあ♡」

まる「それじゃあお望み通り、まずはストッキングを脱いで...」
まる「くすっ、あれえ、マルのパンツ見てるんですかぁ？」
まる「いいですよお、好きなだけ見て、ほら...可愛いレースがついた紺色パンツ...」

まる「サラサラの生地で肌触りも凄くいいんですよ？」
まる「ここも、いっぱい汗かいちゃいました♡」

まる「それに、汗以外にも...おしっこかぁ...」
まる「変態なお兄さんの姿をみて染み出しちゃった愛液とか...色んな匂いがしますよお？」
まる「むふふっ、ガン見しすぎです♡...ほら、ストッキング脱ぎましたよ〜」

まる「それじゃ、お兄さんのおちんぼ踏んであげる.....その前に、よいしょ...つと」
まる「チクニー大好きなお兄さんなら知ってると思いますけどお...」
まる「目隠しされるともっと乳首気持ち良くなるんですよ♡」

まる「この脱ぎたてのニーハイストッキングを顔に巻き付けて...」
まる「目隠し状態で匂い嗅ぎながらのチクニー...最高ですよね？」

まる「こうして結んで...どうですか？生温かくて、マルの匂い感じますう？」
まる「くすっ、どんなエッチなことされるか、分からなくなっちゃいますね♡」

まる「今度は指を立ててえ、カリカリ、しちゃいます？」
まる「ほら、この状態でマゾ乳首好きなように弄っていいですよ♡」
まる「私が耳元でえ、想像が膨らむエッチな吐息...聞かせてあげます♡」

まる「はあ...シャツに浮き上がったマゾ乳首を...」
まる「コリコリコリコリ...カリカリカリカリ...って♡」
まる「指でぴんぴん弾いて、こねて、摘んで...あまあい刺激に涎垂らして...くすっ♡」

まる「マルはまた椅子に座って...ここ♡ふふっ、ビクってしてる♡」
まる「マゾちゃんぽさんに何か当たりましたね？なんでしょうねえ♡」

まる「マルの生足、小さな女の子の足でふみふみ...ちゅこちゅこしてあげます♡」
まる「ほら、もっとマゾの証♡恥ずかしいお漏らし汁垂らしましょうよお...」
まる「それを優しく塗りたくって、おちんぼ虐めてあげますう♡」

まる「ふみふみふみふみ...バキバキのマゾちゃんぽを...ちゅこちゅこちゅこちゅこ♡」
まる「ぷっくり膨れた乳首さんを...カリカリカリカリ...こねこねこねこね♡」

まる「お兄さん、今の自分の姿、分かってますう？」
まる「脱ぎたてのニーハイストッキングから必死にメス臭を嗅いで...」
まる「シャツに浮き上がった恥ずかしい乳首をお...自分の指でコリコリカリカリ...」

まる「そのうえ、1日汗かいて蒸れた生足でえ...」
まる「情けなく勃起させたちんぼ踏まれてるんですよ？」

まる「言葉にすると変態すぎて、興奮して...も〜っと気持ち良くなれますねえ♡」

まる「くすっ、チンポびよんびよん跳ねさせて...お返事ですかぁ？」
まる「お兄さんって言葉でなじられるのホント好きですよ、きも♡」
まる「生足でマゾちんぽをふみふみ、ちゅこちゅこ...いやらしいマゾ汁、とぶとぶ♡」

まる「そうだ、今度はもっとお兄さんが喜びそうなこと、してあげますね...ふんふ〜ん!」

まる「ほらあ、何か近づいてきたの分かります？」
まる「匂いフェチのお兄さんなら分かっちゃうかもしれませんね♡」
まる「マルの脇♡...汗をかいだ生脇が、お鼻の目の前にあるんですよ♡」

まる「ほら、もっと必死に嗅いでくださいよお、変態お兄さん♡」
まる「あ、チクニーも忘れちゃダメですよ？」
まる「女の子の脇をおかずにして乳首で頭蕩けさせてくださいね♡」

まる「汗で汚れちゃったんで、マルの脇...ぺろぺろ舐めてもらっていいですかぁ？」
まる「ほら、舌出してください、もっとお♡」

まる「んっ...ふう...くすぐったくて...やんっ、気持ち、いいです♡」
まる「...んふっ、どう、ですかぁ？マルの生脇は...美味しいですかぁ？」

まる「反対側も...どうぞ♡...んっふう...あはっ、見えない中で必死にぺろぺろしてえ...」
まる「んっ、ふう...乳首いじって...えっろおい姿です♡」
まる「んっ、ふう...はあ...そんな姿みたら...マルのあそこも...疼いちやいますう♡」
まる「...んっ、あっ...ふう...いい、ですよお...♡...んっ、ふう...」

まる「ふう...おしまい♡とても気持ち悪くて可愛かったですよ、お兄さん♡」
まる「くすっ、足も脇も堪能できて幸せ者ですね〜♡」
まる「さて、今度はなんでしょうか？」
まる「ちょ〜っと待っててくださいね♡」

まる「んっ...うわあ...マルもやばあ...濡れちゃってるし...んん...えっろお...」

まる「...ふんふ〜ん」なんでしょうね〜楽しみですね〜♡」
まる「見えないから分からないですね〜♡」

まる「被せられるかな...んしょ...つと...あ、いけそう...こうして、つと」

まる「むふふ〜、口元に湿ってるの当たってますかぁ？それ、なんだと思います？」
まる「お兄さんのエッチで変態なチクニーを見てえ...」
まる「きゅんきゅんして漏れちゃった、マルの、愛液♡」

まる「お兄さんの口元にエッチなお股の部分がくるように...」
まる「マルの脱ぎ立てパンツ、被せてあげたんですよ♡」

まる「舐めてもいいんですよ？もっと顔に押し付けてあげましょうかぁ？」
まる「マルの、染み付きパンツ♡」
まる「柔らかい肌触りですよ、マルのお気に入りです♡」

まる「蒸れた足の臭いに、メス特有のおまんこの匂いが混ざって...」
まる「すんすん、すん...ん〜やばあ♡」
まる「こんなの嗅ぎ続けたら、頭とろとろになってえ...」
まる「マルの匂いを嗅ぐたび、どこでも乳首弄りしたくなる変態になっちゃいますね♡」

まる「もっと変態になりましょうよ？」
まる「マルが「はい♡」って匂い嗅がせたら、すぐに欲情スイッチ入ってえ...」
まる「乳首もちんぽも勃起させる...変態マゾに堕ちちゃいましょうよ♡」

まる「ほらあ、頭キメでもっと変態になってえ...ん、ちゅ...ちゅば...」

まる「くすっ、反対側からマルがパンツを舐めるとお...」

まる「おまんこ当たってた部分、口元にもっと押し付けられちゃいますねえ♡」

まる「んちゅ...ちゅば...れろれろ...ちゅう...ほらあ...お兄さんも舐めてえ？」

まる「ちゅる...ちゅば...れろお...くすっ、こんな変態な姿...」

まる「誰かに見られたら一発アウトですねえ♡」

まる「今ここで若い女の子がきたらあ...」

まる「女子の匂いをおかずにチクニーしてるキモいど変態がいる〜って...」

まる「笑ってもらえますよお♡」

まる「くすっ、ちんぽからエッチなお汁も情けなく漏らして...」

まる「今度は耳元で囁きながら、手コキ...してあげます♡」

まる「お兄さんはマルのメス臭をいっぱい嗅ぎながら...」

まる「必死で自分の乳首コネコネカリカリしていじめてくださいね？」

まる「最高のど下品お射精...マルがしっかり見ててあげますう♡」

まる「ほらあ、パンツをくんくん、ぺろぺろしながらあ...」

まる「乳首を、くりくりくりくり...カリカリカリ...♡」

まる「ギンギンに勃起したおちんぽを...ちゅこちゅこ...シコシコ...し〜こ、し〜こ♡」

まる「玉筋の裏も指でくすぐってあげます♡さわさわ...かりっ♡」

まる「金玉たふたぷでズッシリ...ここにマゾミルクがいっぱい詰まってるんですね〜♡」

まる「ほらほら、もうちょつとでここがきゅ〜ってなって...」

まる「おちんぽから勢いよく、びゅくびゅく〜ってお射精できますよお？」

まる「おちんぽちゅこちゅこ...マゾ汁でべとべとになった亀頭を、ぬちゅぬちゅ♡」

まる「変態...変態...チクニーが大好きな乳首マゾ...」

まる「乳首が刺激を感じるとすぐにオチンポ準備しちゃう...情けないオス♡」

まる「ふうー、くすっ、乳首弄りももっと興奮するようにい...」

まる「耳元でマルの吐息と声、もっと聴かせてあげますねえ♡」

まる「ふふっ...勃起乳首も気持ちよさそお...」

まる「イジるスピード...どんどん早くなってます♡」

まる「乳首に合わせておちんぽ扱きのスピードも上げますねえ...」

まる「お兄さん、お耳舐められるのも好きでしたねー♡」

まる「舐めてあげる...ん...ちゅう...ちゅば...」

まる「ん...じゅるる...ちゅば...足の臭いとパンツの匂い、ゼロ距離でくんくんして...」

まる「んちゅう...ちゅば...だあい好きな乳首も弄って...」

まる「おちんぽ柔らかい手でチンシコされて...ちゅう...ちゅば...じゅるる...」

まる「嬉しいですねえ♡...ちゅう」

まる「ちゅば...んー？そろそろ限界、ですかあ？」

まる「...くすっいいですよお、恥ずかしいぴゅっぴゅ、しちゃいましょ♡」

まる「こってり濃厚ざーめん、びゅくびゅく吐き出すとこ見せてくださあい♡」

まる「マルが今から3カウントしてあげますから、それまではぎゅ〜って我慢ですよお？」

まる「さーん♡」

まる「はあ...んちゅ、くんくんぺろぺろお♡...じゅる、女の子のメス臭好き♡」
まる「ちゅば...ちゅる、チクニーしながらのくんくん...んっ、変態ちんぽにくるう♡」
まる「ゼロ距離で嗅いでえ...じゅる、ちゅば...頭蕩けちゃう♡んっ、じゅる...」
まる「ちゅば...コリコリカリカリい...ちゅる...さいっこお♡」
まる「んっ...に〜い♡...ちゅう」

まる「ほらあ、はあ...ちゅる、おちんぽも、ちゅこちゅこちゅこちゅこ♡」
まる「じゅぷ...えっちな水音が出てえ...んっ、ちゅ...くっさあいオス臭がのぼってきてる♡」
まる「じゅるる、乳首もお...カリカリい...ちゅ、カリカリカリい...ちゅば」
まる「あとちょっとでえ...んちゅ、気持ちいい変態絶頂...じゅるる、きめられますよお♡」

まる「ちゅば...い〜ちい♡んっ、じゅる」

まる「んふっ、あ〜やばいやばい♡ちゅば、...キンタマきゅーってなっぺ...」
まる「精子のぼってきちゃう♡...じゅる、腰ガクガクしちゃう〜♡ちゅう...ちゅば」

まる「んっ、ふう...びゅくびゅく、したいですね〜？」
まる「じゅる...いいですよお...んちゅう、アへ顔決めて涎垂らして...」
まる「下品に乳首マゾが射精するところお...ちゅば、晒しちやお？」

まる「んちゅ、イケ...変態♡じゅるる、イケイケイケ...」
まる「ぴゅっぴゅして...？んちゅう、じゅば、マゾ汁ぴゅっぴゅ♡」
まる「ちゅば...マゾ射精、しちゃえ♡じゅるる...だせだせだせえ、ちゅば...ほら、いーけ♡」

まる「んっ...ちゅる...ぶぴゅ...びゅくびゅく〜、れろお...びゅるびゅる...ぴゅっぴゅ...」
まる「ちゅる...マゾ汁お漏らしい...ちゅう、ぴゅっぴゅっぴゅ〜♡」
まる「んふ〜、ちゅう...いっぱい出てますう♡じゅる...」
まる「おてての中にい...んちゅ、ぴゅっぴゅ...ちゅば、マゾの証を...ぴゅっぴゅっぴゅ〜♡」

まる「んん...すんすん、すん...くっさあ...精液の匂いすっご...」
まる「マルの手にいっぱい出て...クセになる匂い♡」

まる「ほらあ、こんなにいっぱい出てますよお？」
まる「...って見えないですよ、涎も垂らして...メス臭で頭キマりましたかあ？」

まる「ん...ちゅる...じゅるる...ほらあ、これ...んっ、ちゅば...じゅるる...」
まる「耳元で聴かせてあげます...んちゅう...お兄さんのザーメン、飲み込む音♡」
まる「じゅる...んっ、すごいクセになる味い...ちゅる...」
まる「どろどろで...濃厚で...発情しちゃうようなエロい味...」

まる「ちゅる、それじゃ...いきますよお？」
まる「...じゅるう...んっ、んっ...ごくん...ん、はあ...」

まる「ふふっ、全部...飲んだよお？」
まる「喉に絡まるほど濃厚で、大量♡」
まる「こんなにいっぱい出して、よっぽど気持ちよかったんですね♡」

まる「にしても、これでマルの匂いを体で覚えちゃいましたね〜♡」
まる「これはますます搾り甲斐が...」
まる「いえいえ、たくさん楽しいことができそうですね♡」

まる「あ、マルは何か作ってあげるの...」
まる「しばらくその格好で余韻にでも浸っていてくださいね〜、変態お兄さん♡」